



今月の一枚

老院一周忌に参列した責役四役他の皆さん（5月11日、順慶寺本堂にて 岡川経康氏撮影）

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2021年(令和3年)

6月号

VOL.332

◆◆ 前住職の一周忌 ◆◆

順慶寺で行われる寺族の法事は、平成10年に十九世・良雅の五十回忌が行われてから実施されることはなかった。前住職が亡くなって、二十三年ぶりに寺族の法事が勤められたが、コロナ禍の中、御門徒の皆様の参列は見送られた。

◆ 知らず知らずに餓鬼となる私 ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』（『法句経』）より、

「貪りにまさって焼き尽くす火はなく

怒りにまさって不運を招くものはない

諸々の^①纏にまさる苦しみはなく

静寂にまさる幸せはない」（二〇二偈）

からの出典です。

私たちは、欲求にかられると、それを満たすために、つい盲目になってしまうことがあります。傍から見て、その姿が、あまりに見すばらしく見苦しいので、古来より、骨皮だけになって、お腹だけをぷっくりと膨らませ、肌が黒ずんだ姿の餓鬼（飢えた鬼）の姿として描かれています。

鬼とは、「遠仁」とも書くことがあるようですが、他人のことを思いやる心（仁の心）から遠ざかったものを差すようです。あまりにつらく、他人のことなど思いついていない暇がなく、わらをもすがりたいときに、思わず餓えた鬼と化しているのでしょうか。



今月のブツダの言葉

貪りに等しい火炎はなく

怒りに等しい不運はない



若院のテーマカット NO.26



このところ、新型コロナウイルスの中で、私たち自身、こうした餓鬼と化した状態を多く経験しています。コロナが蔓延し始めたころの、マスクの争奪、アルコール消毒液の争奪などのコロナが主因のこと、トイレトーパー争奪戦などの間接的なことも発生しました。これは、特別な状況ではなく、普通の人の心の内にある真の姿が、現れたに過ぎないのではないのでしょうか。

実は、ほとんどの人が、日常の心に戻ってみると、我さきにと奪い合う餓鬼の姿は見苦しいと思っています。しかし、実際には、き